

“ 一歩前進 ”

会長 星野隆之

桜開花後に雪が降るような不順な天候から、ようやく爽やかな春になったとはいえ、政治はぐらぐらと迷走し、ワールドカップは目前なのに日本代表への期待感は今一つ、、、。そんな中でも皆さま方におかれましては、それぞれのお立場で奮闘されていることとお察し申し上げます。平成21年度の各行事へは多数ご参加いただき、現役支援のバロメーターにもなる会費納入者は、過去最多人数となりました。厚く御礼申し上げます。

さて、下記の要領で「平成22年度通常総会」を開催いたしますので多数の方々のご出席をお願い申し上げます。また、総会後の懇親会へも是非ご参加いただき、親睦を深めるとともに、この世知辛い世の中、就職活動の一助にもなれば幸いかと思っております。ご多忙の中、貴重な休日とは存じますがよろしくお願い申し上げます。通常総会の資料とともに、会費納入の振込用紙を同封させていただきました。「活気あふれるOB会」「現役への大いなる支援」に、また一歩前進する年度にしたいと思っております。例年にも増してご協力をお願い申し上げます。

麗和サッカークラブ通常総会

1 期 日 平成22年 6月6日 (日)

2 日 程 10:00～ 新入生(34名) VS FCれいわ +OB戦
12:00～ 通常総会(麗和会館 2F会議室)
13:00～ 懇親会

3 協議事項 (1) 平成21年度 事業報告・決算について
(2) 平成22年度 事業計画・予算について
(3) 会則・会則の運営基準の改定について
(4) その他

4 報告事項 (1) 現役報告、その他



住所変更・会員消息・連絡等は
下記アドレスへお願いします。
連絡先アドレス 星野隆之
takayuki40402002@yahoo.co.jp

新年度を迎えて

浦高サッカー部監督
松村道彦（高27回）

新年度のスタート、4月2日からの浦和カップは予選リーグ全敗、研修試合も全敗と散々の結果でした。昨年度は冬の新人戦から南部支部優勝、新人戦県大会ベスト8、関東予選県ベスト8、インターハイ予選県ベスト4、と県の上位で闘うことができましたが、オール3年生のメンバーでの結果だったつけが新チームに回ってきていると考えています。今現在は経験値を積み重ねながら一步一步前進するしかないと腹をくくっているところです。生徒はとにかくよく頑張ります。個々の力をみると県の並のレベルですが、吸収力は昨年以上だとみています。まだまだ力不足ですが、昨年の秋の新チームのスタート時と比べると着実に伸びています。本日（5月3日）総体支部予選にて川口東高に破れ県大会出場を逃しました。謙虚に個人、チームを見つめ直し、この後すぐ開幕するU-18Lを闘いながら夏の合宿を経て最後の選手権予選に臨みます。OBの皆様になかなか良い報告ができなく大変申し訳なく感じておりますが、厳しくも暖かい目で見えていただき、ご指導願えれば幸いです。

寂しい話題ばかりでは申し訳ありませんので、1つ朗報をお届けいたします。

この4月より本校サッカー部顧問として新たに2名の先生方をお迎えしました。

渡部剛教諭、（数学）、谷直樹教諭 OB高49回（数学）です。お二人とも審判ライセンス、指導者ライセンスを持ち精力的に指導していただいております。顧問が、私と以前から指導していただいている石井教諭も含め計4名となりました。スタッフの充実に甘えることなく結果に反映させたいと思います。よろしくお願いたします。

現役情報

部員数	3年	18名	2年	32名	1年	33名	合計	83名
高校総体支部予選	5月1日（土）		5月3日（月）		対浦和ルーテル		1：0	
					対川口東		0：3	

今後の予定

U-18L

5月9日（日）	対川口高10:00(川口高G)
5月30日（日）	対浦和北高11:45（浦和西G）
6月6日（日）	対浦和西高11:45（川口高G）
6月13日（日）	対大宮北高11:45（浦和西G）
6月19日（土）	対国際学院11:45（浦和西G）
6月20日（日）	対上尾高11:45（浦和西G）
7月17日（土）	対小松原高13:30（浦高G）

サッカー部顧問となって

渡部 剛（数学科）

前任校越谷東高校で6年間サッカー部に携わらせていただき、県16まで勝ち上がることができました。この経験を生かし、浦和高校で頑張りたいと思います。主に1年生を担当しますが、生徒たちには「情熱、向上心、そして感謝」を常に持ち続けられるよう指導していきたいと考えています。私自身、いろいろな方々にご指導を頂き精進していきたいと考えています。よろしくお願いたします。

谷 直樹（高49回）

今年度よりサッカー部の顧問となりました谷直樹(高49回)です。教科は数学です。自分自身も汗を流したこのグラウンドで後輩の指導に携わることができ、非常に嬉しく思っています。浦和高校サッカー部のチーム力を向上させるために出来ることをこつこつと積み重ねていくとともに、自分自身の指導者としてのスキルを向上させるための努力をしていきます。今後ともよろしくお願いたします。

2009シーズン FCれいわ 戦績

(県3部リーグ南地区)

第1節	3 / 2 9	VS	大原リカーズ	1 - 1
第2節	4 / 5	VS	エスペランサ	0 - 2
第3節	4 / 2 9	VS	本太クラブ	3 - 1
第4節	5 / 3	VS	北浦和SC	1 - 1
第5節	5 / 1 0	VS	FC Bicho	1 - 0
第6節	5 / 2 4	VS	川口バブルス	6 - 1
第7節	8 / 9	VS	戸田JSC	0 - 1 0 (不戦敗)
第8節	8 / 2 3	VS	上尾朝日FC	3 - 1
第9節	8 / 3 0	VS	与野LIBERTY	4 - 2
第10節	9 / 6	VS	浦和UFC	8 - 3
第11節	9 / 2 7	VS	AC蕨	2 - 0

県3部リーグ 7勝2分2敗 (勝点23 第2位) 県リーグ2部入れ替え戦
出場へ

(県リーグ2部入れ替え戦)

1 1 / 8	VS	アルドール狭山 (県3部西部地区第2位)	1 - 2	昇格ならず
(彩の国カップ 社会人大会 1次予選)				
1 2 / 6	VS	大宮西SC	不戦勝	
1 2 / 1 3	VS	下落合FC	3 - 0	
1 2 / 2 0	VS	浦和キッカーズ	3 - 2	
(彩の国カップ 社会人大会 2次予選)				
1 / 3 1	VS	サンバ南 (西部地区代表)	1 - 2	

サッカードクター生活40年

高16回（昭和39年卒）

「埼玉県サッカー協会医事委員会副会長」
「埼玉県医師会健康スポーツ医学委員会委員長」

私か医師となったのは昭和45年である。浦高サッカー部3年生の時、~~一壘上~~上壘、キャプテンも務め当時既に医学部に進学していた鶴岡明先輩に、「順天堂に来ないか」と誘われたのがきっかけだった。以来大学時代も含め現在迄ずっと鶴岡先生と二人三脚でやってきた。昭和47年から丁度発足した日本サッカーリーグの古河電工の初代チームドクターとなり、サッカードクターとしての一歩が始まったのである。小生の出身の順天堂は古河電工や東京ガス等と昔から関係があり、サッカー部長の太田哲男先生からの命であった。以来浦和に開業してからも暫くは古河電工のチームドクターを務めていた。当時から日本サッカー協会、サッカー界は古河電工、東洋工業、三菱重工が御三家として君臨しており、とりわけサッカー協会には古河電工出身の人が多かった。私が古河電工のチームドクターとなった時の同期のマネージャーが現副会長・FIFA理事の小倉純二氏、その他長沼健氏、鎌田光男氏、八重樫、宮本(征)、川淵、奥寺、清雲、前田、田嶋、岡田、永井氏等の錚錚たるメンバーが頭に浮かんでくる。古河電工のチームドクターとなってから日本協会とのつながりもでき、昭和49年5月の朴大統領杯を始めとして都合15回各種日本代表のチームドクターとして海外遠征に帯同した。昭和51年日本協会に医事委員会が発足した時から日韓ワールドカップ終了迄の26年間日本協会の医事委員を務めてきた。昭和54年にはマラドーナがデビューした第2回ワールドユース大会開催に際して、埼玉県協会に医事委員会を創るよう当時県協会副会長だった倉持守三郎先生に言われ、鶴岡先生と諮って医事委員会を発足させた。以来県協会主催・主管の大会、試合の際の医事運営に携ってきた。日韓ワールドカップや59埼玉国体での医事運営など鶴岡先生と二人で、JAWOCや行政担当者とケンケンガクガクの、時には怒髪天を衝く、という程の感情も含めて、いろいろ苦勞したのも今となってはよい(?)思い出である。

私達の頃は日本ではサッカーはまだマイナーなスポーツであり、日本リーグの試合には両チームの会社関係者の人達も含めて観客は1000名弱というところであったし、ましてや本当の有料入場者数は100名たらずというところであった。海外遠征でも今のように多くのマスメディアやカメラマンが追いかけてくるなどということはなく、サッカー専門の2名のカメラマンが交互に、半ば協会に頼まれて随行し、ホテルも一緒に練習でもカメラマンとしての仕事だけでなく、ゴール裏で球拾いも兼ねていた。チームドクターの役割も監督とキャプテン、サブキャプテンとの間の潤滑油として、マッサージの補助として選手のマッサージをしたり、マネージャーと共に買い出しに行ったり、時にはホテルの内外へ酒を飲み連れ出したりもしていた。貧乏協会だから最後の2回ぐらいは1日あたり10ドル(100ドルではない)の日当をもらったがそれ以外は全くの無償であり選手や監督の飲み会の費用も含め全てボランティアとしての働きだった。そんな状況だったから選手を外に飲み連れ出しても何の問題もなかったが、今だったらとんでもないことであった。週刊誌に「〇〇ドクター、△△選手らを飲み連れだし…」と書かれ不振のチーム成績の責任をとらされていたことだろう。今は昔、昔は大らかでよかったな…。その後倉持先生達と共に日本初のヨーロッパ型総合スポーツクラブをめざして畑県知事を顧問に相川宗一浦和市長を会長に頂いて浦和スポーツクラブを立ち上げた。この浦和スポーツクラブがJr.Y、Y部門を担うことで三菱自動車がJクラブ入りを認められて浦和レッズとなったのであり、日韓ワールドカップの誘致のためにJリーグでドーピングコントロールが導入される迄浦和レッズのチームドクターも引き受けていた。鶴岡先生と共に浦高サッカー部OBとして約40年間に及ぶサッカードクター生活を送ってきたが、プレーヤーとしてももう少し頑張りたいと思う此頃ではある(もっとも試合相手も男性だとケガをするので最近専ら女子大生、女子高生となってしまっているが)。